

ACTで社会復帰支援

タルメンクえお
ゆうックニクリ
おクリ

十勝リカバリープログラムC開設

帯広市のおえメンタルクリニックゆう（大江徹理事長、鎌田裕樹院長・無床）は、十勝リカバリープログラムセンタ―を二階に開設。精神科デイケアとACT（包括型地域生活支援プログラム）の二部門を柱に、精神障害がいを持つ利用者がリカバリーし、地域の中で希望を持ちながら暮らし、働き、社会貢献す

るようにサポートする。デイケアは、同じ法人の大江病院から引き継ぐが、デイケアの理念を变え利用者の自己決定や自己選択を重視し、WRAP（元氣回復行動プログラム）（社会生活技能訓練）などのリカバリープログラムを導入。利用者は、内容を自発的に選択し、「バスに乗る」「食事に出かける」「野球観戦に行く」など克服すべき課題にチャレンジし社会参加を目指している。

ACTは道立緑ヶ丘病院で長年実績を積んできた桶田昌平医師を招き、看護師と作業療法士二人、ソーシャルワーカーを専従で配置。従来は入

院せざるを得ない重度の統合失調症を持つ利用者に対し、二十四時間三百六十五日、在宅での包括的支援を行っている。希望に沿いながら、利用者の生活スタイルに合わせた治療を含めてプログラムサービスを実施。スタッフが直接利用者の自宅やさまざまな活動の場に出向いて支援を提供し、必要に応じて訪問診療も行っている。

「従来の治療との最大の違いは、利用者のストレングス（元來持っている力）の尊重。基本的に生活上でできることは自分でやってもらい、できないことを幅広くサポートする」（鎌田院長）。生活上の困窮や、年金、生活保護の手続きをはじめ、就職相談にも対応し、就労支援事業所やハローワークに同行するケースもあるという。

現在、ACT利用患者は十人ほどだが、最大で五十人まで増やせるとしている。今後は、地域の関連機関や病院・診療所と連携し、重度の精神障がいを持つ人たちを積極的に受け入れ、社会参加リカバリー促進を働きかけていく考えだ。